

令和 7 年 10 月 1 日

東員町議会運営委員会

委員長 山崎まゆみ 様

東員町議会 議員 三宅 耕三

### 研修（視察）報告書〔議会運営委員会〕

研修期間	令和7年9月29日（月） ～ 令和7年9月30日（火）【 2 日間】
研修（視察）先	1, 長野県宮田村議会 2, 長野県伊那市議会
目的（テーマ等）	1, 議会改革について 2, 議会改革の取り組みについて
参加議員名 (複数の場合)	◎委員長 ※オブザーバー 1、◎山崎まゆみ 2、三宅耕三 3、広田久男 4、伊藤治雄 5、片松雅弘 6、大谷勝治 ※南部 豊（議長）
資料添付の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

## 1. 観察日時・場所

令和7年9月29日 長野県上伊那郡宮田村

## 2. 観察目的

宮田村議会における議会改革や住民参加の仕組みについて学び、今後の本町議会運営の参考とするため。特に、住民と議会の関係性の構築や議会活動の評価方法、広報活動の工夫などについて理解を深めることを目的とした。

## 3. 観察内容

宮田村は中央アルプスを望む豊かな自然環境に囲まれた村であり、地域の魅力を大切にしながら住民主体のまちづくりを推進している。今回の観察では、宮田村独自の仕組みである「村人会議」について詳しい説明を受け、意見交換を行った。

村人会議は、住民部会・行政部会・議会部会の三部会から構成されており、各部会がそれぞれの立場から意見を述べ、議論を深めている。特に議会部会では、議会運営や議会だよりに対する評価と提言が行われており、議会活動の改善につながる実効性の高い仕組みとなっている。住民が主体的に議会評価に関わる仕組みは、議会改革度調査においても高く評価され、全国的にも注目されている。また、これらの活動を通じて住民と議会の信頼関係が醸成され、議会運営の透明性が高まっていることが確認できた。

## 4. 所感

本町議会と比較して特筆すべき点は、住民が制度的に議会評価や提言に関与する仕組みが明確に整えられていることである。議会活動が住民からの評価や提言を受けて改善されるという仕組みは、議会に対する信頼を高めると同時に、住民の主体性を引き出す効果があると感じた。また、議会広報についても住民の意見を反映させながら改善を重ねている点は、本町にとっても大いに参考となる。今後、本町議会においても住民との双方向の対話をさらに充実させ、議会活動をより開かれたものとしていくために、今回の観察で得られた知見を活かしていきたい。

以上

視察日時、場所 長野県伊那市議会視察

## 1. 観察の目的

本町議会では、住民に開かれた議会運営を推進しつつ、通年議会の導入や議長任期の延長といった制度改革を検討している。その参考とすべく、議会基本条例制定以来、さまざまな改革に取り組んでいるとされる長野県伊那市議会を訪問し、実際の運営状況や先進事例を学ぶことを目的とした。

## 2. 伊那市の概要と地域特性

伊那市は、南アルプスと中央アルプスに囲まれた自然豊かな環境を有し、移住者が比較的多い地域である。山々に抱かれた地勢は、観光資源としての魅力だけでなく、定住促進や地域コミュニティの形成にも寄与している。このような背景は、地方都市における人口減少対策や地域活性化にとって大きな強みであると感じられた。

## 3. 議会の取り組みについて

今回の視察では、議長が単独で対応し、議会改革の取り組みについて説明を受けた。主な特徴は次のとおりである。

### 1. 高校生との意見交換会

市内に四つの高校があるという特性を活かし、定期的に高校生と意見交換会を実施している。高校生の率直な声を聞く場を設け、若者に政治参加の意識を芽生えさせている点は注目すべきである。特に議長が最後に必ず「将来はぜひ議員を目指してほしい」と呼びかけているとのことで、次世代育成への強い思いが感じられた。

### 2. 市民サポーター制度と政策提言

市民サポーターを公募により募り、議会の調査研究に市民の意見を組み込む仕組みを導入している。これにより、議会が市民の声を受け止め、政策提言として反映することが可能となっている。住民参画を重視する姿勢は評価できる取り組みである。

## 4. 議会改革に関する質疑と印象

出席者から通年議会の導入について質問を行ったが、議長の見解は否定的であった。答弁内容からは、通年議会の趣旨や意義について必ずしも十分な理解が進んでいないことがうかがえた。さらに、全体を通じて、伊那市議会が必ずしも議会改革を積極的に牽引している議会であるとは感じられず、改革の先進性という点では物足りなさが残った。

## 5. 所感

今回の視察により、伊那市議会の取り組みからは「若者や市民との対話の場を持ち、意識を育てる」点において参考となる学びがあった。他方で、制度改革の推進という観点からは、通年議会や議長任期の在り方といった抜本的な取り組みには消極的であると実感した。

本町議会が目指すべきは、住民参加の充実に加え、議会の迅速かつ柔軟な対応を可能にする通年議会の導入、そして議会運営の安定性を確保する議長任期の延長である。これらは議会の機能強化と住民本位の政治実現に不可欠な改革であり、今回の視察を通してその必要性を改めて認識することができた。

## 6. まとめ

伊那市議会の実践は、市民参画や若者との意見交換という面で示唆を与えるものであった。しかしながら、本町議会が進めようとする制度改革と比べれば、その歩みは限定的である。今回の研修を通じ、本町議会の目標が明確になったと同時に、改革を実行する主体としての責任の重さを痛感した。今後は、伊那市の長所を参考にしつつも、より踏み込んだ改革を進め、住民に信頼される議会を築いていく所存である。

以上